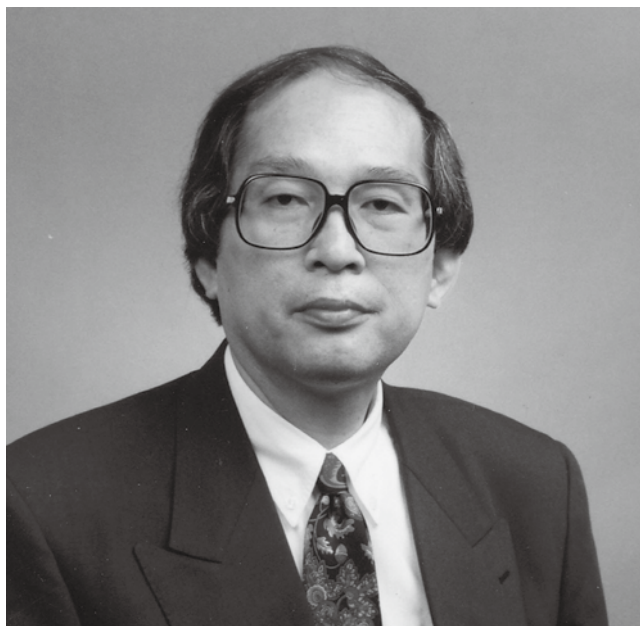




谷内健氏を偲ぶ

和田精二

2014年9月23日、本学会元副会長・名誉会員の谷内健氏が75年の生涯を閉じられました。あまりに早い旅立ちが残念でなりません。

谷内氏は、1962年に千葉大学工業意匠学科をご卒業後、三菱電機に入社され、企業人として活躍される一方で、デザイン学会に対しても多くの貢献をされました。1988年から4年間の学会理事、1994年から2年間の副会長・研究推進委員会委員長のほか、会報編集委員会、作品審査作品集編集委員会、企画委員会、学会各賞選考委員会の活動や論文査読にも注力されました。一方、学会の大会における口頭発表や論説等の執筆も多く、こうした活動に対して、デザイン学会功労賞やデザイン学会名誉会員が授与されたものと思われます。

さらに、企業内デザイナーを学会に導く活動を積極的に行われたことも思い出されます。1980年代の初めごろ、自社の企業内デザイナーを対象に谷内塾を立上げ、成果の口頭発表や論文執筆を促されていましたが、その頃すでに「デザイン論」を学会で発表できるデザイナーを10名以上育成していました。また、社内にあつては全社的な技術発表会制度のデザイン部門の責任者として、小論文やレポートの査読を担当、論理の組み立て方から言葉の作法に至るまで厳しく指導されました。デザイナーに対してこのような努力を強いた背景には、若かりし頃の谷内氏の米国における経験が大きく影響しているように思えます。

谷内氏は、1962年に商品研究所デザイン課に配属された後、デザインの現場における業務経験を積まれていましたが（この時期に毎日工業デザインコンペで特選を受賞）、その後の人生を決めたのが1970年から約3年間の米国三菱商事（シカゴ）への出向でした。当

時の三菱電機は、米国内で家電商品を守る体制が皆無であったため、1969年に米国三菱商事商品販売事業部の中に同社の商品販売を目指す小さな組織を発足させました。1974年に同社の販売会社が設立されるまで、MGA（Mitsubishi Group of America）ブランドの商品販売ルートの確立を目指す活動がなされました。そうした、デザインのデの字も見えていない時期に販売ルートを確立する現場に自分が投げ込まれることを想像すれば、谷内氏のご苦労が半半可でなかったことは容易に想像がつかます。今でこそ海外赴任は珍しくありませんが、当時は三菱電機全社でも海外赴任者が25名程度だったと聞きました。

後年、この時に商事会社の社員に厳しく教えられたビジネスレターの書き方から米国人との交渉術に至るまでが、その後の人生でいかに役立ったかを何度も聞かせていただきました。このときの経験が、企業内デザイナーかくあるべしという信念や行動指針になったように思えます。谷内氏が常々強調されていたのが、「企業内に閉じるな」というメッセージでした。その具体的な方法論のひとつとして、学会への積極的な参画があった訳で、学会で論理的にデザイン論を展開できるデザイナーの育成に注力された大元はシカゴ時代の原体験にあったものと考えられます。谷内氏は、自らも大会での口頭発表を積極的に実践されましたが、「デザインの国際性と地域性に関する研究」辺りが個人的に最も興味をもたれた領域と思われます。

もうひとつ、谷内氏が強調していたのが、「国内に閉じるな」というメッセージでした。自らの海外経験を後進にも体験させようと、全社的な海外要員育成留学制度をデザイン部門にも展開し、1977年以降、欧米の販売会社や工場へ11名のデザイナーを送り込み、各自に1年間の海外経験をさせました。こうした基盤づくりがその後の海外駐在員派遣制度や外国人デザイナーの採用制度に発展していきました。今更ながらに「企業内に閉じるな」「国内に閉じるな」という谷内氏のメッセージの先進性に驚かざるを得ません。

固いことばかり書いてまいりましたが、谷内氏は趣味の幅も広く、横浜市の栄区民合唱団やメサイヤ演奏会などで活躍されてきました。栄区民オペラ「カルメン」公演では、男性スタッフが足りなかったために、女工に色目を使う若者、酒場の客、密輸商人の手下、お巡りさんの4役をこなされたのがいまだに語り草となっています。まだまだやり残されたことも多いと思います。それだけに今回の早すぎる旅立ちが残念でなりません。谷内氏のご冥福を心からお祈りすると共に、ここまで育てていただいたことに対し、心から感謝の意を表したいと思います。

◆谷内健氏の略歴

1962(S37)年、千葉大学工学部工業意匠学科卒業

1962(S37)年、三菱電機(株)入社

1994(H6)年、同社デザイン研究所所長

1997(H9)年、(株)デザインオペレーション21社長

第61回春季研究発表大会報告

春季研究発表大会委員長 山内 勉

実行委員長 池田岳史

平成26年度の第61回春季研究発表大会は、平成26年7月4日（金）から6日（日）まで、「しあわせのデザイン」をテーマとし、福井県福井市の学校法人金井学園 福井工業大学 福井キャンパス（7/5,6）、同市 AOSSA 福井県県民ホール（7/4）を会場に福井工業大学の共催で開催されました。本研究発表大会は、名誉大会委員長である森島洋太郎福井工業大学学長の代理で出席された鈴木晋一郎同大副学長、山中敏正日本デザイン学会会長による開会の辞と共にスタートし、会員を中心に523名の参加によって、大変盛況に開催することが出来ました。

本大会のテーマである「しあわせのデザイン」は、都道府県別幸福度ランキング1位の福井県での開催といった背景とともに、デザインは、しあわせ、幸福、よろこび、楽しさ、Happinessを求める人間の行動と深くかかわっていることを再認識する意味もあります。

基調講演では、慶應義塾大学大学院 前野隆司教授をお招きし、「しあわせのメカニズムとデザイン」というテーマでお話いただきました。講演では、ご自身らの行ったアンケート調査に基づく主観的幸福の因子分析の結果から、幸福に寄与する4つの因子について述べられるとともに、これらの4因子をもの作り、こと作り、町づくりに活かす事例についても紹介されました。

続く特別講演では、iki design company 代表の谷 俵太（越前屋 俵太）氏に、「面白いをデザインする」をテーマにご講演いただきました。ご自身が企画、演出、制作、出演等携われてきた番組を中心に映像を交えてご紹介いただくとともに、「見立て、ミタテ、mitate」をテーマに様々なデザインを語られました。

オーガナイズドセッションは、「50年後のしあわせな暮らし」（オーガナイザー：清水泰博）、「インタフェースデザインの評価」（オーガナイザー：井上勝雄）、「演習課題から探る“しあわせ”のデザイン」（オーガナイザー：伊藤真市）、「次世代デザインの枠組みをさぐる：行為の中で見いだすデザインの実践」（オーガナイザー：原田 泰）4つのテーマでセッションを設けました。パネリストには、デザインに関わる研究者、実務者に加え、教育をテーマにしたセッションでは、学生、大学院生も登壇し活発な議論が繰り広げられました。

本大会では口頭、ポスターの合計290件の研究発表が行われました。この内口頭発表は174件であり、情報デザイン、地域振興、地域研究、形態、構成、デザイン方法論、デザイン論、デザイン教育、ユニバーサルデザイン、タイポグラフィ、デザイン計画、デザイン評価、デザイン史、感性工学、環境デザイン、景観デザイン、建築、インテリア、インタフェース、デザインマネジメント等の各分野にわたって会員の研究成果が発表されました。またこれらの他、テーマセッションとして「サービスイノベーションデザイン」、「伝統的資源の現在学」、「生活を豊かにするインタラクションデザイン」、「創造的復興」、「フレームワークに基づく創造的デザイン、サービスの創出」、「子どものためのデザイン」、「デザイン科学の枠組みとタイムアクシス・デザイン」、「形態論と形や動きの創発デザイン」、「感性デザインと情緒デザイン」、「ロバストデザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティ」が各研究部会によって設けられ、専門性が高い議論が行われました。

ポスター発表は2日間に分けて116件が発表されました。本大会では例年に比べ、ポスター発表の登録件数が多かったため、多人数の発表に対応できる講堂を会場として設定しました。発表は、3D映像体験が可能な発表や、実物モデルの持ち込みなどそれぞれの発表に工夫が見られ、多くの発表者、参加者により活発な討議が行われていました。



写真左：開会挨拶（福井工業大学 鈴木 晋一郎 副学長）写真右：開会挨拶（日本デザイン学会 山中敏正 会長）

学生交流ワークショップは、「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのだろう？」をテーマに実施された。ワークショップでは、全国から集まった学生、大学院生がそれぞれの、デザイン作品、研究成果等を持ち寄り、ファシリテーターを交えて、お互いに議論する中から、新たなデザイン思考や行為を探っていきました。当日の会場は参加者の熱気にあふれ、活発かつ濃密な議論が繰り広げられていました。

企業展示には、地元福井県内の7企業・団体を含む、合計13の企業・団体に展示いただくとともに、福井県内情報を提供するおもてなしブース、県内の特産品を扱うお土産ブースを設けました。県内からの出展企業には、化学、眼鏡等精密加工、曲面立体印刷、伝統を活かした傘といった独自の技術、製品を持つ企業に加え、越前和紙、越前漆器といった伝統技術を活かした製品開発を手掛ける企業の展示もあり、参加者は展示製品を手に取り、時には購入しながら企業との交流を図っていました。大会初日夕方からのエクスカージョンは、1として「えちぜん鉄道ツアー」、2として「きたまえ亭落語会」を企画しました。

えちぜん鉄道ツアーでは、福井駅からあわら湯のまちまでの往復は、貸切電車で飲食。到着後は足湯、藤野厳九郎記念館、屋台村「湯けむり横丁」を楽しみました。福井駅前寄席「きたまえ亭」では、桂 蝶六師匠によるデザイン学会会員限定の落語とともに、飲食を楽しみました。

2日目夜の懇親会は、福井工業大学に隣接し、グループ企業が運営する福井アカデミアホテルを会場に、175人のご参加をいただき、盛大に催されました。懇親会は、日本で唯一のハーブ製造メーカー（青山ハーブ）がある福井での開催であるため、ハーブ演奏で参加者をお迎えし、山内 勉大会委員長の歓迎挨拶、福井工業大学デザイン学科の川島洋一主任教授の乾杯のご発声でスタートしました。大会実行委員会では「しあわせ」の一つとして、大会にご参加いただく皆様に、豊かな福井の食材

を楽しんでいただきたと考え、お刺身の船盛り、こだわりの醤油、トマト（越のルビー）、胡麻豆腐、油揚げ料理、焼き鳥、おろし蕎麦、水ようかん等、それぞれに福井産、福井ゆかりの料理を提供させていただきました。更に福井県酒造組合よりご提供いただいた、12蔵元、47銘柄、87本の日本酒を皆様にお楽しみいただきました。

大会の運営については、大会カラーの使用を徹底することとし、印刷物、参加証、バッグ、スタッフ衣装、会場サインシステムの構築等を行った。特に会場サイン、スタッフのネクタイによる識別、学生スタッフによるオペレーション等について、多くの参加者から高い評価を得ることができました。

第61回春季研究発表大会のグッドプレゼンテーション賞には、以下の15件の研究発表が選ばれました。

A2-03 プロジェクト型デザイン教育の実践

青木 幹太、井上 友子、佐藤 佳代、星野 浩司、佐藤 慈、荒巻 大樹（九州産業大学 芸術学部）

A4-05 産学連携による大川家具の商品開発プロセスと活動成果

隈本 あゆみ*、青木 幹太**（九州産業大学大学院*、九州産業大学**）

A7-04 音を利用したプロダクトによる大人と幼児の時間の流れの共有に関する研究2

赤井 愛*、谷口 由佳**（大阪工業大学*、大阪工業大学大学院**）

A8-04 アルゴリズムによるデザインとその言語に関する考察

宮田 悟志、許 筠（ダッソー・システムズ株式会社）

B3-07 知的障害中学生の日本工業規格JIS 案内用図記号の理解度に関する研究

工藤 真生（筑波大学）

B4-01 視覚的テキストとしてのアトラス

伊原 久裕（九州大学大学院芸術工学研究院）



写真上左から：基調講演（慶應義塾大学大学院 前野隆司 教授）、特別講演（iki design company 代表 谷 俵太氏）、口頭発表、オーガナイズドセッションD
写真下左から：ポスター発表、学生交流ワークショップ、エクスカージョン1・えちぜん鉄道ツアー、エクスカージョン2・きたまえ亭落語会

B5-01 たなからまじきり

本江 正茂*, 三浦 翔太*, 森 翔太*, 姫野 孝**, 小山 健介**, 山添 要** (東北大学大学院*, 株式会社ウチダテクノ**)

B8-02 メーキャップによる肌色の誘導現象

小室 友理奈*, 岡崎 あかね* 高野 ルリ子**, 大久保 紀子**, 桐谷 佳恵*

(千葉大学大学院 工学研究科*, 株式会社資生堂 ビューティークリエーション研究センター**)

C2-04 駅構内コンビニエンスストアにおける IC カード利用促進の調査研究

伊藤 晶子*, 櫛 勝彦*, 滝山 直樹**, 神垣 智一*** (京都工芸繊維大学*, JR 東日本メカトロニクス**, 東日本旅客鉄道株式会社***)

C4-04 秋田市の和菓子を事例とした 6 次産業化の支援

孔 鎮烈*, 田中 隆充** (秋田公立美術大学*, 岩手大学**)

C5-04 学習のリフレクション頻度と成果物の社会的評価の相関性について

横溝 賢*, 夏坂 光男*, 原田 泰** (八戸工業大学*, 公立はこだて未来大学**)

C7-02 磁石による連結機構を用いた造形学習用教材による造形過程と造形物の考察

蛭田 直 (信州大学教育学部)

C8-03 知覚特性にもとづく照明の最適設計支援システム

小林 卓哉, 柳澤 秀吉 (東京大学大学院工学系研究科)

D4-05 地域の価値を共有するためのデザイン実践

宮田 雅子 (愛知淑徳大学)

D9-01 都市における食の ICT サービス創造研究

秋山 福生*, 石垣 純一*, 三好 絢子*, 小松 岳**, 田尻 力也***, 峯元 長***, 瀬戸 宏一***, 小野 健太**, 渡邊 誠** (千葉大学大学院*, 千葉大学**, 株式会社日立製作所***)

本大会では、「しあわせのデザイン」をテーマに、数多くの講演、発表、討論が行われました。生活文化の向上と産業の発展に関わるデザインは、これからも社会のさまざまな課題に向き合っていくことになり、この機会にあらためて、現在そして未来のしあわせのかたちを考えることができたのではないのでしょうか。

謝辞：

開催にあたって助成金を受けた(公財)福井観光コンベンションビューロー、その他協賛いただいた各社に感謝の意を表すとともに、開催校である福井工業大学デザイン学科の先生方(会員外)に展示、エクスカーション案内、学生交流ワークショップのファシリテーター、ポスター発表、企業展示の運営まで、様々な面で絶大なご協力をいただいたことに感謝します。

平成 25 年度第 5 回理事会議事録

日時■平成 25 年 10 月 19 日(土曜日)

12:30 ~ 13:30

場所■多摩美術大学 八王子キャンパス

本館 3 階 大会議室

出席者■山中、松岡、須永、青木(史)、池田、井上、伊原、片岡、工藤、久保(雅)、久保(光)、杉下、中島、野口、萩原、三橋、森田、両角、山崎、佐藤(浩)、佐藤(弘)、八馬、

委任状出席■青木(弘)、浅沼、岡崎、清水、國澤、黄、高野、田村、寺内、永井、橋田、細谷、山内、

欠席■杉山、蓮見、古屋、小野、

名誉会員■上原、君島、中嶋、野口、原田、

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介(山中会長)

山中会長より名誉会員の紹介がなされ、それぞれの名誉会員から近況報告がなされた。

3. 平成 25 年度第四回理事会議事録の承認

(八馬本部事務局幹事)

八馬本部事務局幹事より平成 25 年度第四回理事会の議事録が提示され、誤字脱字等の修正を加えることで、承認された。

【審議事項】

4. 第 6 1 回春期研究発表大会について

(池田春季大会実行委員長)

池田大会実行委員長より、会場、体制、宿泊、プログラムなどを含めた大会の準備状況について報告がなされた。大会テーマについて、第 2 案として地域性を考慮した「しあわせのデザイン」が示され、審議の後に承認された。なお、類似タイトルの書籍などがあることが考えられるため、確認の上で必要に応じて微修正することとなった。

5. 日本デザイン振興会より「ご協力のお願い」について

(青木(史)理事)

青木(史)理事より、東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けた「2020 東京大会のデザインを考えるプラットフォーム」の説明がなされた。審議の結果、本学会も取り組

みに参加することが承認された。

6. 会員の移動について（八馬本部事務局幹事）

事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員5名（内海外会員2名）、学生会員3名〕、退会〔正会員1名〕が承認された。

7. その他

特になし。

【報告事項】

8. 『デザイン科学事典』企画編集委員会の進め方

（井上市販図書・出版委員長（代）松岡委員）

井上市販図書・出版委員長（代）松岡委員および佐藤（浩）幹事より、『デザイン科学事典』の刊行についての概要が報告された。市販図書・出版委員会で詳細に検討した後に、次回理事会であらためて審議する方針が示された。

9. 第五支部活動報告（伊原第五支部支部長）

伊原第五支部長より、10月に崇城大学で開催された「第五支部平成25年度研究発表会・懇親会」について報告がなされた。発行した概要集のタイトルや体裁などについて、「デザイン学研究」との関連を踏まえた取り扱いを支部委員会において検討の上、理事会に諮ることとなった。また、支部大会での発表記録を参照する仕組みも併せて検討することとなった。

10. その他

特になし。

（記録：八馬）

平成25年度第6回理事会議事録

日時■平成25年12月21日（土曜日）

15:00～17:30

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎（田町）

3階 305教室

出席者■山中、須永、青木（史）、池田、伊原、片岡、清水、工藤、國澤、國本、久保（雅）、黄、杉山、高野、田村、中嶋、生田目、野口、橋田、蓮見、三橋、両角、山内、五十嵐、佐藤（浩）、山本、小野、

委任状出席■浅沼、井上、岡崎、久保（光）、杉下、寺内、

永井、萩原、細谷、森田、八馬、佐藤（弘）

欠席■松岡、青木（弘）、古屋、山崎

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成25年度第五回理事会議事録の承認

（小野本部副事務局長）

平成25年度第五回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成26年度春季研究発表大会について（山内大会委員長）

山内大会委員長より、大会ロゴ二案が示され、審議の後、一案が選ばれた。山内大会委員長より、本日選ばれたロゴを使用し、ホームページを早急に立ち上げ、宿泊施設などについて会員に告知したいとの報告がなされた。また後援については、今まで通り、実行委員会で判断頂き進めることが確認された。

4. 平成26年度秋季企画大会について（山中会長）

山中会長より、平成26年度秋季企画大会の開催について、東京造形大学造形学部へ打診したところ、引き受けても良いとの返事を頂き、今後、前向きに検討をすすめることで承認がなされた。またテーマは、「デザイン教育の国際化」を進めていく予定であるとの報告がなされた。

5. 2014年春季研究発表大会オーガナイズドセッションのテーマ募集について（松岡総合企画委員長（代）佐藤（浩）幹事）

松岡総合企画委員長の代理として、佐藤浩一郎幹事より、オーガナイズドセッションのテーマ募集の手続きについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

山中会長より、テーマについて審議が必要であるため、理事会スケジュールを勘案しながら進めて頂きたいとの要望がなされた。

6. 2014年春季研究発表大会テーマセッション募集について

（須永研究推進委員長）

須永研究推進委員長より、テーマセッション募集の手続きについて、部会主査向け、会員向けそれぞれについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

7. 作品集電子化および今後の学会誌のあり方とロードマップ

について（岡崎学会誌編集・出版委員長（代）工藤委員）

岡崎学会誌編集・出版委員長の代理として、工藤委員より、作品集電子化および学会誌のあり方とロードマップについて、説明がなされた。作品集の電子化の是非について審議がなされ、審議の後、電子化を進めることで、承認がなされた。

ロードマップについては、平成26年度は、論文集、作品集については、紙媒体、電子媒体ともに出版し、平成27年度から電子媒体のみに移行する、特集号については引き続き紙媒体として出版する案が示され、審議の後、承認がなされた。また特集号には、論文集、作品集に掲載される論文・作品のリストを掲載し、会員のアクセスを促すこととした。

また小野本部副事務局長より、全ての学会誌を電子化のみにした場合、会員の閲覧権限をどのように与えるかについて質問がなされた。國澤理事より、会員へのユニークIDおよびパスワードの付与に関しては、電子選挙システムの導入を考えるのであれば、必須となるとの意見が示された。

審議の後、閲覧権限に対しては、個人にユニークIDおよびパスワードの付与し、会員のみ閲覧を認める方向で承認がなされた。

山中会長より、閲覧権限に関しては、会員のメリットを、どのように考えるかという重要な問題であるため、電子化を進めながら、慎重に検討していきたいとの意見が示された。

8. 作品集投稿規定について（清水作品審査委員長）

清水作品審査委員長より、作品集の応募・投稿から掲載までの手順案、および投稿規定案について説明がなされた。杉山理事より、作品審査の審査対象・方針について、改めて慎重に検討する必要があるとの意見が示された。また青木（史）理事より、杉山理事の指摘は、作品集の根幹をなす指摘であり、電子化を進める前に、きちんと議論する必要があるとの意見が示された。

その後、審議の結果、作品審査委員会で、日本デザイン学会の作品集のあり方について、改めて検討することとした。

9. 「デザイン学研究」英文誌電子審査システムの構築に

向けて（久保（光）論文審査委員長（代）山中会長）

久保論文審査委員長の代理として、山中会長より「デザイン学研究」英文誌発行について、英文誌を日本語誌とは別に発行すること、また英文誌専用の審査システムを導入することが提案され、審議の後、承認がなされた。投稿資格、発刊スケジュールについては、さらに検討を進めることとした。

10. 支部刊行物等の取り扱いについて

（両角企画委員会支部企画委員長）

両角企画委員会支部企画委員長より、支部発行の刊行物の現

状について報告がなされた。また支部刊行物の「デザイン学研究」の文言の使用について、今後、支部発行の刊行物について、刊行指針、公開方法・スケジュールについて、支部委員会で検討をすすめることについて審議がなされた。支部刊行物において「デザイン学研究」の文言は使用しないこと、刊行指針、公開方法・スケジュールについて、支部委員会で検討をすすめることについて承認がなされた。

11. 法人化について（國澤担当理事）

國澤担当理事より、現在の活動報告、また方針について説明がなされた。最終的に公益化するかどうかは別としても、一般社団法人の非営利型への移行をまずは目標として進めていきたいとの提案がなされ、審議の後、承認がなされた。

また今後のスケジュール案が示され、承認がなされた。今後、規定、経理について検討を進めていきたいとの意見が示された。

12. 会員の移動について（小野本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員5名（内外国人1名）、学生会員6名（内外国人2名）、退会（正会員7名、学生会員1名）]が承認された。

【報告事項】

13. 平成26・27年度評議員候補者現況報告

（工藤選挙管理委員長）

工藤選挙管理委員長より、現状の評議員候補者について、資料が配布され報告がなされた。

14. 特集号発行の進捗状況と2014年度の計画について

（岡崎学会誌編集・出版委員長（代）工藤委員）

岡崎学会誌編集・出版委員長の代理として工藤委員より、特集号の発行状況について、また2014年度の計画について報告がなされた。山中理事より、2014年度のテーマについて、もう少し広げる方向で検討して頂きたいとの意見が示された。

15. 作品審査委員会のスケジュール及び作品審査の

進捗状況について（清水作品審査委員長）

清水作品審査委員長より、作品審査の進捗状況について、報告がなされた。本日開催された作品審査委員会で、18作品より14作品を採択したとの報告がなされた。

16. 学生会員制度の実態報告（生田目財務委員長）

生田目財務委員長より、学生会員制度導入後の実態について報告がなされた。学生会員の会費未納会員の割合が非常に高い

ため、今後、学生会員の期限を3年から1年に変更することについて、審議を諮りたいとの意見が示された。

17. 平成25年度春季研究発表大会報告（五十嵐大会実行委員長・山本大会実行委員）

五十嵐大会実行委員長・山本大会実行委員より、資料に基づき、平成25年度春季研究発表大会の会計について報告がなされた。

18. 平成25年度秋季企画大会報告（須永大会実行委員長）
須永大会実行委員より、資料に基づき、平成25年度秋季企画大会の会計について報告がなされた。

19. 藝術学関連学会連合シンポジウム報告（清水学術会議担当理事）

清水担当理事より、11月16日に開催された会議で、2014年度のシンポジウムのテーマが、仮）芸術とダークサイドに決定されたこと。また1月以降に発表募集がなされるので、会員の方にぜひ応募して頂きたいのと

20. 第三支部活動報告（國本第三支部長）

國本第三支部長より、3月21日福井工業大学福井キャンパスで開催される第三支部研究会について告知がなされた。

（記録：小野）

平成25年度第7回理事会議事録

日時■平成26年2月1日（土曜日）

13:00～16:30

場所■秋葉原ダイビル 5F 会議室 5E

出席者■山中、松岡、須永、久保（光）、両角、山内、山崎、玉田、蘆澤、小野、

委任状出席■生田目、岡崎、清水、佐藤、八馬、

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成25年度第六回理事会議事録の承認

（小野本部副事務局長）

平成25年度第六回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成26年度春季研究発表大会について

（山内春季研究発表大会委員長）

山内大会委員長より、平成26年度春季研究発表大会の準備状況、およびスケジュール案について説明がなされた。山中会長より、大会発表費について、会員への負担を考慮し、減額を検討して欲しいとの要望が出され、大会実行委員会で検討することとした。

4. 平成26年度春季研究発表大会のオーガナイズドセッションについて（松岡企画委員会総合企画委員長）

松岡企画委員会総合企画委員長より、オーガナイズドセッション募集に応募された、企画案6件について説明がなされ、審議の後、4件を採択することとした。

5. 平成26年度春季研究発表大会テーマセッション募集結果とテーマ設定について（須永研究推進委員長）

須永研究推進委員長より、テーマセッション募集に応募された10件について説明がなされ、審議の後、10件を採択することとした。

6. 平成26年度春季研究発表大会学生交流ワークショップ

について（須永研究推進委員長）

須永研究推進委員長より、学生交流ワークショップについて説明がなされた。テーマ、参加費の徴収、スケジュールについて審議がなされ、テーマを「デザインの行為と思考：デザインの学生たちは何をどう学んでいるのか？」とすること、学生交流ワークショップの参加費は、大会参加費とし、学生交流ワークショップの参加費は別途徴収しないこととすること、スケジュールについては提案通り承認がなされた。またワークショップのメンターの大会参加費は徴収しないことで承認がなされた。

7. 平成26年度秋季企画大会について（玉田大会実行委員長）

玉田大会実行委員長より、組織体制、テーマ、日程について提案がなされ、審議の後、テーマについては、平成26年度は造形大学創立50周年と重なっていることもあり、適切な連携を考えながら進めていくこと、日程については10月25日（土）で検討し、次回の理事会で決定することで承認がなされた。

8. 学会HP上でのJ-Stageへのリンクについて

（久保（光）論文審査委員長）

久保光徳論文審査委員長より、学会ホームページのJ-Stageへのリンク方法について提案がなされた。審議の後、“J-Stage”という文言の使用は避け、事前情報のない訪問者でも迷わずア

クセスできるよう“論文集”など平易な文言を用いて誘導することとした。

ただ学会出版物の名称について、様々な文言が用いられているため、本部事務局が、学会出版物に対する文言の使われ方の現状を調査し、次回の理事会で報告することとした。

またJ-Stageの書誌事項、全文PDFの閲覧数の推移について、順調に推移しているとの報告がなされた。

9. 「デザイン学研究作品集」投稿規定（案）

（清水作品審査委員長（代）須永作品審査委員）

清水作品審査委員長の代理として須永作品審査委員より、デザイン学研究作品集の投稿規定（案）が示された。審議の後、第3条（作品集の内容）の原著でない場合も認める対象から、二重投稿を認める印象を与えかねないため、“当学会誌論文集”という文言を外すこととした。

“作品論文”、“作品ムービー”という文言については、次回理事会で再度審議することとした。また第9条（現行の提出先）で記載されている宛先については、ホームページで参照の旨を記載することとした。

10. 「デザイン学研究作品集」への新しい投稿システム

の提案（山内教育・資格委員長）

山内教育・資格委員長より、日本デザイン振興会が実施している「グッドデザイン賞」の応募者に対し、デザイン学研究作品集への応募を促す、新しい投稿システムについて提案がなされた。また蘆澤幹事より、グッドデザイン賞応募時に記載する内容と作品論文で記載する内容がどのように対応できるかについて説明がなされた。

審議の結果、投稿のハードルを下げるために、筆頭者が会員でなくても共著者に会員がいれば投稿できるような規定変更まで考え検討し、来年度4月より、グッドデザイン賞の募集に合わせて、作品論文への投稿を促すための告知をすることとした。また松岡副会長より、投稿のハードルを下げる意味で、グッドデザイン賞の応募時に記載する内容を、作品論文に適応させるためのひな形を用意することも重要であるが、それと同時に論文の書き方について、学会が講習会などを開催することも重要であるとの意見がなされた。

須永副会長より、グッドデザイン賞をテーマとした特集号やオーガナイズドセッションを企画すべきであるとの意見がなされ、審議の後、学会誌編集・出版委員会において、グッドデザイン賞をテーマにした特集号を計画に盛り込むこと、また企画委員会総合企画において講習会開催について検討することとした。

11. 会員の移動について（小野本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員11名（内外国人7名）、学生会員7名（内外国人4名）、退会（正会員4名、学生会員2名（内外国人1名））]が承認された。

【報告事項】

12. 第5回国際デザイン学連合国際会議（IASDR2013）

会計報告等（山中IASDR担当）

山中IASDR担当より、第5回国際デザイン学連合国際会議の会計報告がなされた。また会議をまとめた冊子が回覧された。

13. 支部刊行物等の取扱いの考え方について

（両角企画委員会支部企画委員長）

両角企画委員会支部企画委員長より、現在、支部間で統一すべき項目について、各支部に問合せているとの報告がなされた。項目が集まった後、検討を進めていきたいとの報告がなされた。

14. 平成26・27年度評議員報告

（工藤選挙管理委員長（代）小野本部副事務局長）

工藤選挙管理委員長の代理として小野本部副事務局長より、平成26・27年評議員について報告がなされた。

（記録：小野）

平成25年度第8回理事会議事録

日時■平成26年3月15日（土曜日）

10:00～12:00

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎（田町）

3階305室

出席者■山中、松岡、伊原、岡崎、片岡、工藤、國澤、國本、久保（雅）、久保（光）、黄、杉下、杉山、高野、田村、寺内、永井、中嶋、生田目、野口、萩原、橋田、蓮見、三橋、森田、両角、山内、佐藤（浩）、佐藤（弘）、小野、八馬、山崎、

委任状出席■須永、青木（弘）、浅沼、池田、井上、清水、

欠席者■青木（史）、古屋、細谷

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成25年度第七回理事会議事録の承認

(小野本部副事務局長)

平成 25 年度第七回理事会の議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 第 61 回春季大会準備状況について (山内春季大会委員長)

山内春季大会委員長より、宿泊の案内、基調講演 (前野隆司氏 (慶應義塾大学))、エクスカージョン、企業展示について、説明がなされた。

また、前回の理事会で要望があった発表費の減額について、実行委員会が審議した結果、事前 3000 円、当日 4000 円に変更することとしたとの報告がなされた。

4. 春季大会 O S について (松岡企画委員長・佐藤幹事)

松岡企画委員より、4 件のオーガナイズドセッションのテーマ、パネリストについて説明がなされた。佐藤幹事より、パネリストにお支払する交通費、謝金について説明がなされた。一部既定の 8 万円を超えるセッションもあるが、合計は予算内で納まっており、また開催地が遠方で交通費が発生するという理由により、承認がなされた。

5. 学生交流ワークショップ募集要項について

(須永研究推進委員長 (代) 杉下研究推進委員)

須永研究推進委員長の代理として、杉下研究委員より、学生交流ワークショップの告知内容について、告知を 2 段階にすることについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

また告知方法については、HP、メール、学会誌同梱のチラシを通じて、適切に行うよう依頼がなされた。杉山監査より、概要に書かれている“デザインすることには思考と表現行為のふたつの面があります。”という表現は、思考と表現行為が別のものであると理解される可能性があるため、概要について見直して欲しいとの要望がなされ、委員会で検討することとした。

6. 概要集編集委員会報告

(細谷委員長 (代) 佐藤本部事務局長)

細谷委員長の代理として、佐藤本部事務局長から、平成 25 年度概要集編集委員会会計について、また平成 26 年度春季研究発表大会の投稿サイト外注費について報告がなされた。

次に、平成 26 年度春季研究発表大会のデータを BIB 形式から XML 形式に変更すべきかについて、審議がなされた。J-STAGE が将来 BIB 形式から XML 形式に移行することをすでに表明していること、また現時点で推奨していることもあり、平成 26 年度春季研究発表大会から XML 形式で対応すること

とした。また変換にかかる費用については、平成 25 年度の余剰金でまかなうこととした。

7. 作品集投稿規定等の見直しについて

(清水作品審査委員長 (代) 工藤委員)

清水論文審査委員長の代理として、工藤委員より、作品集投稿規定 (案) について説明がなされた。杉山監査より、投稿カテゴリー (b) 作品論と作品ムービーの審査対象について、不明瞭な部分があるとの指摘がなされた。山崎理事より、“作品集”という名称自体も、内容にふさわしい名称、例えば“作品論文集”に変更した方が良いとの指摘がなされた。國本理事より、作品集の審査対象は、論文なのか作品なのか明確にする必要があるとの指摘がなされた。山中会長より、名称については様々な観点から慎重に議論する必要があるため、次の理事会に申し送りたい、ただ投稿規定自体は、文言の見直しなど必要な部分については修正はするが、電子化のスケジュールを鑑み、大筋提案された内容で進めたいとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

8. 会員数推移ならびに学生会員動向の継続追跡について

(生田目財務委員長)

生田目財務委員長より、会員数の推移について説明がなされた。会員数については減少傾向にあるが、学生会員制度がそれを補う可能性もあり、引き続き会員数を追跡調査していく必要があるとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

9. 支部刊行物に関する指針 (案) について

(両角支部企画委員長)

両角支部企画委員長より、支部刊行物における、タイトル、ロゴ、体裁、レイアウト、Web サイト等への掲載方法について説明がなされた。Web サイト等への掲載方法・タイミングについて、上位規定があればそれに従うが、そのような規定がないのであれば、委員会で検討したいとの説明がなされ、審議の後、Web サイト等への掲載時期に関する上位規定は存在しないため、支部企画委員会で検討することとした。

10. 平成 26 年度秋季企画大会の日程について

(玉田大会実行委員長 (代) 山中会長)

玉田大会実行委員長の代理として、山中会長より、平成 26 年度秋季企画大会を 10 月 25 日に開催することについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

11. 会員の移動について (小野本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会：正

会員 11 名, 学生 7 名 (内外国人 4 名), 退会: 正会員 24 名, 学生会員 6 名, 年間 1 件] が承認された。

【報告事項】

1 2. 論文審査委員会状況報告 (久保 (光) 論文審査委員長)

2012 年度, 2013 年度の論文審査状況について報告がなされた。また英文誌の投稿規定策定状況について報告がなされ。英文誌の投稿規定については, 次の委員会で検討を進めて欲しいとの依頼がなされた。

また三橋理事より, 審査が大変遅れているケースが発生しており, 対応を考えて頂きたいとの指摘がなされ, 久保委員長より, 審査について問題が生じている場合は, 個別に委員会まで連絡頂きたいとの要望がなされた。

1 3. 作品審査委員会報告

(清水作品審査委員長 (代) 生田目委員)

清水作品審査委員長の代理として, 生田目委員より本年度の審査について説明がなされた。現在, 編集作業, 印刷発刊作業を行っているとの報告がなされた。

1 4. 学会出版物の名称について (小野本部副事務局長)

小野本部副事務局長より, 学会出版物の名称の現状について報告がなされた。学会誌の名称については, 慎重に議論する必要があるため, 次回の理事会で検討することとした。

1 5. 第三支部研究発表大会について (國本第三支部長)

3 月 21 日に福井工業大学で第三支部研究発表大会を開催するとの告知がなされた。

(記録: 小野)

献本御礼

◆機関誌

木の文化 FORUM 2014 年第 11 号, September, 2014, 木の文化フォーラム事務局

GK Report No.27/2014, 特集 都市と迎賓, September, 2014, GK DesignGroup

タイポグラフィ学会誌 0 7, November, 2014, タイポグラフィ学会

デザイン理論 64 号, 2014, 意匠学会

KUMAGAI UPDATE 73, September, 2014, 株式会社熊谷組

◆報告書

科学技術駆動型イノベーションとそれを支える工学研究の成功事例に関する調査研究～地蔵可能な科学技術・イノベーション創造立国づくりに向けた提言, December, 2014, 公益社団法人日本工学会

◆寄贈図書

モノづくりの創造性, 野口尚孝, 井上勝雄, December, 2014, 海文堂出版株式会社

◆展覧会図録

世界プロセスとしての身振, 向井周太郎, September, 2013, 武蔵野美術大学美術館・図書館

JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION Vol.15, 公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会

募集案内

2015 年度グッドデザイン賞応募受付

グッドデザイン賞は 1957 年に創設された日本を代表するデザイン賞です。世界から応募されるあらゆるジャンルのデザインを「社会を築き前進させるデザイン」という視点で審査するとともに, さまざまなプロモーションにより選ばれたデザインを社会に伝えています。受賞したデザインは高い認知度を誇る「Gマーク」を使って PR することが出来ます。2015 年度は永井一史氏と柴田文江氏を審査制副委員長として, デザインの新たな役割と可能性を追求します。応募はグッドデザイン賞のウェブサイトから, 皆様のご参加をお待ちしています。

■受付期間: 平成 27 年 4 月 2 日 (木) ～ 6 月 3 日 (水)

■応募対象: 製品、建築、ソフトウェア、プロジェクト、仕組みやサービスなど、あらゆるものごとのデザイン

■応募説明会 (予定): 札幌、東北、新潟、東京、名古屋、北陸、京都、大阪、広島、福岡、韓国、中国、台湾、香港

■主催: 公益財団法人日本デザイン振興会

■後援 (予定): 経済産業省 / 中小企業庁 / 東京都 / 日本商工会議所 / 日本貿易振興機構 (JETRO) / 国際機関日本アセアンセンター / 日本放送協会 / 日本経済新聞社 / 読売新聞社

■お問い合わせ: 公益財団法人日本デザイン振興会

〒107-6205 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー 5 F
TEL.03-6743-3777 E-mail.info@g-mark.org

■詳細情報: www.g-mark.org

催し物

単位展

企画展「単位展 ― あれくらい それくらい どれくらい?」

- ◆会期：2015年2月20日（金）～2015年5月31日（日）
- ◆会場：21_21 DESIGN SIGHT
- ◆開館時間：11:00～20:00（入場は19:30まで）
- *4月1日（水）-5月31日（日）は開館を早め、10:00-20:00に変更します
- *4月25日（土）は六本木アートナイト開催に合わせ、通常20:00閉館のところを特別に24:00まで開館延長します（最終入場は23:30）
- ◆休館日：火曜日、年末年始、展示替え期間
- ◆入場料：一般1,000円、大学生800円、中高生500円、小学生以下無料
- *15名以上は各料金から200円割引
- *障害者手帳をお持ちの方と、その付き添いの方1名は無料
- *無印良品 MUJI passport アプリをご利用の方は、入場割引がごさいます（詳しくはアプリのニュースをご覧ください）
- その他各種割引についてはご利用案内をご覧ください。
- ◆主催：21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団
- ◆詳細情報：http://www.2121designsight.jp/

ポッティチェリとルネサンス展 フィレンツェの富と美

- ◆会期：2015年3月21日（土祝）～6月28日（日）
- ◆会場：Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷東急本店横）
- ◆開館時間：10:00～19:00（入館は18時半まで）
- ◆夜間開館：毎週金・土曜日は21時まで（入館は20時半まで）
- ◆主催：Bunkamura、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社
- ◆後援：外務省、イタリア大使館
- ◆特別協賛：大和ハウス工業
- ◆詳細情報：http://www.bunkamura.co.jp/museum/exhibition/

第62回春季研究発表大会

第62回春季研究発表大会を、下記要領にて開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。多数の会員の皆様のご参加、ご発表をお待ちしております。

日程：2015年6月12日（金）～14日（日）

会場：千葉大学西千葉キャンパス（千葉県千葉市稲毛区）

最寄り駅：JR西千葉駅または京成みどり台駅

※詳細につきましては順次、日本デザイン学会サイトにてお知らせいたします。

なお、詳細につきましては、以下の幹事校特設サイトをご覧ください。

http://design-cu.jp/jssd2015/

開催までの主要日程：

事前参加登録：5月1日～5月22日

オンライン参加登録：5月1日～6月5日

※6/6以降はオンサイトにて、現金のみ受付とさせていただきます。

第六十二回日本デザイン学会春季研究発表大会

「デザインの幹」

日時：6月12日（金）～14日（日）
場所：千葉大学 西千葉キャンパス

12日（金） けやき会館
13:00-14:00 開会式
14:15-14:30 開会式
14:30-16:00 基調講演
「骨とトゲのあるデザインの話」
講演者：竹原 あき子（和光大学名誉教授）
16:10-17:40 特別セッション
「デザインの未来史：次世代への視覚化の問題集」
パネリスト：原 研哉（武蔵野美術大学）、黒田 祐一（一橋大学）
コーディネーター：小林 昌樹（武蔵野美術大学）
※一般に開講料は、登録料、参加料、どちらでもご参加いただけます。
18:00-20:30 エキスカーション
【インフォアタリズム】
京葉コンベンションの夜を満喫しよう！
会場：京葉コンベンション（京葉駅）
※本大会参加者のみを対象として募集を行います。定員に達した場合は抽選となります。一般の方もご参加いただけます。

13日（土） 総合校舎C,D,F (G-4,5,8) 千葉デザインセンターのすぐそば
09:00-11:00 口頭発表①
11:00-12:00 ポスターセッション①
13:00-15:00 口頭発表②
15:15-17:15 オークションセッション①
「アーク・デザイン・アワード」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
オークションセッション②
「子どものためのデザインに必要な視点とは何か」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
学生発表セッション
「デザインと社会」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
17:30-19:00 懇親会・大学発表

14日（日） 総合校舎C,D,F (G-4,5,8) 千葉デザインセンターのすぐそば
09:00-11:00 口頭発表③
11:00-12:00 ポスターセッション②
13:00-14:30 口頭発表③
14:30-16:30 オークションセッション②
「アーク・デザイン・アワード」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
オークションセッション③
「子どものためのデザインに必要な視点とは何か」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
学生発表セッション
「デザインと社会」
パネリスト：田中 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）、中村 浩二（京大）
コーディネーター：田中 浩二（京大）
16:30-17:00 閉会式

参加費用

	大会参加費	登録料	大会発表費	エキスカーション
会員	¥8,000 (¥7,000)	¥6,000 (¥5,000)		
非会員	¥9,000 (¥8,000)	¥7,000 (¥6,000)		
学生会員	¥4,000 (¥3,000)	¥3,000 (¥2,000)	¥4,000 (¥3,000)	¥1,500
学生発表費	¥1,000 (¥800)	¥800 (¥600)		

※参加費には、経費がのり込まれます。
※参加費がのり込まれた場合は、当日の受付で現金で支払ってください。
※1日あたり1名までです。

※本大会の運営は、千葉大学西千葉キャンパスにて行われます。最新情報は幹事校ウェブサイトをご覧ください。

大会実行委員長 伏見 公雄

http://design-cu.jp/jssd2015

春季研究発表大会ポスター